

BTCからのお知らせ

軽種馬育成調教場の運営・管理

平成22年を迎えて

平成22年の年明けは、調教場は大変な吹雪に見舞われ、600mの屋内走路に吹き込んだ雪を除雪するという調教場始まって以来初めての作業から始まりました。明けて2歳となった育成馬の調教の出鼻をくじかれた感じですが、調教は序々に熱の入ったものとなっていくことでしょう。この時期、調教馬の75%が2歳馬となります。調教場利用馬は、昨年2歳は新馬勝ち41鞍を含む111勝を挙げました。これは中央競馬の2歳競走の約2割を占める数字であります。勝ち上がることがまず第一の命題であります。勝ち上がるための調教を如何に行っていくか、みなさんのもっとも力の入るところであります。

平成21年の年間の利用頭数は180,886頭(前年比106.6%)、1日平均581頭(前年比107%)、1日の最高利用頭数は4月24日に763頭(開場以来の最高)を記録しました。利用頭数は平成18年から3年間は1日平均ほぼ500頭でしたところ、一昨年・昨年と増加をしました。このことは、調教場周辺にさらに新たに育成用馬房が建設されたことによるものと考えています。

このように利用頭数と調教場の管理状況が安定してきた状況を受けまして、いままでは調教場の運営管理を、JRAからの委託という形で行っておりましたが、本年からBTC自からの事業として行うこととなりました。と申しまして調教場の使い方や実際の管理業務の方法が変わるところはありません。

BTCといたしましては、いままでと同様に場内の施設の保全と整備に努め、日頃の調教が、安全に効果的にできる環境づくりに励んでまいりたいと思います。宜しくご理解、ご協力をお願いします。

財団法人軽種馬育成調教センターでは、利用者の皆様が円滑に育成馬の調教を行えるように適正かつ効率的な運営・管理を目指しており、十分な日々のメンテナンスとともに、各種作業をおこなっています。

平成21年度に実施した主な作業は以下のとおりです。

屋内直線走路は、走路部のウッドチップが細粒化したので、新材を補充しました。

1,600mトラックは、春先の雨により路盤の一部が流失したので、補修を実施した上でオープンしました。

1,600m直線砂馬場は多雨によるクッション砂の流失があり、砂厚調整を重点的に実施しました。

2,000m芝馬場は芝の生育が悪く幅員を区切ってオープンしましたが、その後も多雨等により芝の根腐れが発生したため、芝の一部を張替えました。

800mトラックは南側コーナーに排水溝を増設し、路盤排水の強化を行いました。

冬季間の発馬機馴致のために、第1及び第2カルバートの中間地点を整地し、発馬機を

設置しました。

冬季の迅速な除雪・融氷作業のため、南詰所駐車場及び第4カルバート近辺に資材置場を新設しました。

準備馬場に新材ウッドチップを補充しました。

第4及び第5入場ゲートを電動化し、全入場ゲートの電動化が完了しました。

軽種馬育成調教場の利用に関する詳細は下記にお問い合わせ下さい。

B T C 日高事業所業務課 TEL 0146-28-1001

平成22年6月8日（火）開催予定の「ひだかトレーニングセール（主催 J A ひだか東）」への上場にはB T Cの利用登録が必要です。